

No. J2329
『派閥の中国政治―毛沢東から習近平まで―』
神戸大学大学院 国際文化学研究科 講師 李 昊
本助成によって、名古屋大学出版会より『派閥の中国政治―毛沢東から習近平まで―』を出版した。 本書は、派閥という視点から中国政治のメカニズムを解明することを試みた。中国共産党内派閥の盛衰と政争の連動に着目し、中国政治における派閥の役割と重要性を示した。本書の意義は特に以下の点に挙げられる。 第一に、中国共産党の成立から今日までの100年にわたる期間を、派閥という視角から詳細な事例研究によって分析した。最新の史料を用いて、中国共産党の派閥をめぐる政治闘争について、独自の歴史解釈を含む詳細な実証分析を行った。各事例分析はそれぞれ独立して優れた政治史分析ともなっている。 第二に、本書は比較政治学への理論的貢献を強く指向している。代理人問題、恩顧主義などの知見を援用しつつ、中国を比較可能な文脈に位置付けて分析した。それによって、比較政治学における研究対象としての中国の有用性を示したと同時に、中国を専門としない読者にとっても読みやすい著作となっている。他の国や政党の派閥との相似性や差異などについても丁寧に議論を展開した。加えて、政党内の派閥が競争し合うことで、政策論争が展開され、党内に多様性が生まれることを指摘し、それが共産党の適応力をもたらし、権威主義体制の強靱性を高めていることを論じた。この指摘は、今日の比較政治研究においても重要な論点に貢献するものである。その意味で、本書は比較政治学と中国地域研究の双方に貢献するものである。今後は本書で用いた理論枠組みをもとに、更なる比較研究へと発展させる予定である。 本書は2023年12月現在、いくつかの新聞媒体に書評が掲載されており、11月末に増刷となった。りそなアジア・オセアニア財団出版助成を受けることで、出版を実現することができ、多くの読者に自らの考えをお伝えする機会をいただくことができた。